

< 報道発表資料 >

2021 年 3 月 22 日

**コロナ禍による登山禁止にもめげず、やれるだけのことをして成果を上げています
認定 NPO 法人富士山測候所を活用する会の成果報告会にご参加ください**

2021 年 3 月 28 日（日）13：00 - 16：30 オンライン開催で 2020 年度の成果報告会を行います。

御存知の通り、富士山全面登山禁止のなか、これまで富士山測候所を利用して様々な研究成果を上げてきた本 NPO に所属する研究者たちも、「3 密」が避けられず、かつ地上の 60%の酸素濃度の下で、肺機能障害を起こす恐れのある新型コロナウイルス感染症への罹患は致命的なることを考えると、2020 年は山頂での研究は全て諦めざるをえませんでした。

しかしながら、過去 15 年間に蓄積したデータや、南東側の山麓 1300m の太郎坊基地および御殿場基地事務所をフル活用し、山頂観測を除けば例年以上の観測を行うことができました。それらの成果の中から 16 題の講演を行います。（別紙プログラム参照）

講演は「大気（富士山頂）」「大気（富士山麓）」「雷・噴火など」のセッションで構成されています。

いくつか講演内容をご紹介します。

■国立環境研究所：

野村渉平博士らの「コロナ禍における富士山頂の大気中 CO₂ 濃度」では、リモートで観測中の山頂データを紹介しながら、経済活動の低下が原因とみられる CO₂ 濃度の減少など富士山でなければ得られなかったデータを紹介します。

■早稲田大学・東京理科大学・都立大学など：

合同で行った「夏季・冬季の初の富士山山腹ドローン観測の結果」では、いま問題になっている大気中マイクロプラスチックに関するデータについても、この分野の研究で我が国の先頭を走っている早稲田大学大河内博教授グループの研究者が報告します。

■東海大学、都立大学：

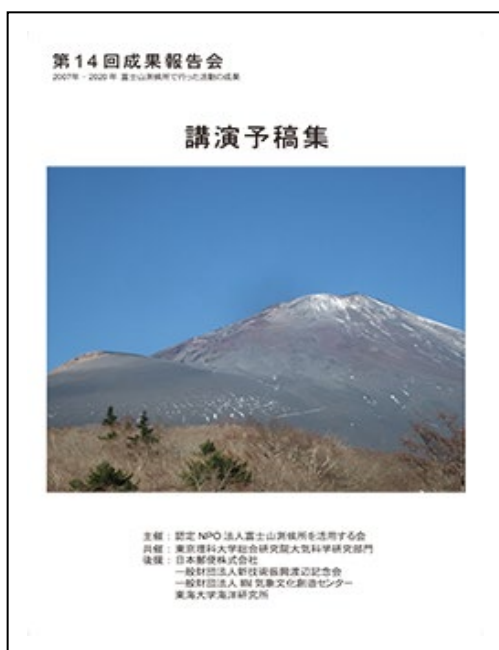
富士山では初めてとなる、精密測定による地磁気観測が今年度スタートしました。東海大学長尾年恭教授による「富士山の噴火予測観測を NPO レベルで目指す～静岡県では初の全磁力観測」と、都立大学加藤俊吾准教授による「富士山頂で火山ガス越冬モニタリング：富士山噴火に備える」では、富士山の火山噴火予知に取り組む NPO の研究が報告されます。

■静岡県立大学、東京理科大学：

激甚災害の多発する昨今、積乱雲と雷の研究（鴨川仁、鈴木智幸...静岡県立大学）や微粒子と雲生成の研究（三浦和彦ほか・東京理科大学）は降雨の形成や激化に関わる非常に重要な内容を含んでおります。こちらにも是非ご注目下さい。

報道関係の皆様におかれましては、日曜日の午後 3 時間半ではありますが、中身の濃い研究発表がたくさんありますので、お時間を割いて頂けますようお願いいたします。

「ご来場」頂ける方には Zoom URL を送らせていただきますので、事前に事務局までご連絡をお願いいたします。



第14回成果報告会(オンライン開催)

日程：2021年3月28日(日)

時間：13:00-16:30

ZOOMでのオンライン発表（発表と質疑応答全体で一般発表12分、学生発表10分）

時間	セッション名	講演番号	発表者(所属)	タイトル	発表区分
13:00-13:05	開会宣言：加藤俊吾（成果報告会実行委員長）、開会挨拶：三浦和彦（理事長）、2020年度観測の概要：皆巳幸也（副実行委員長）				
13:05-13:17	①大気	1	野村渉平(国立環境研究所)	コロナ禍における富士山頂の大気中CO ₂ 濃度	一般
13:17-13:29	(富士山頂)	2	大河内博(早稲田大学)	雲水化学観測では富士山頂は世界一！：長期観測で見えてきたこと	一般
13:29-13:41	座長：	3	三浦和彦(東京理科大学)	微粒子が気候を変える！～富士山から見たエアロゾルの気候影響～	一般
13:41-13:51	和田龍一	4	木村駿(東京理科大学)	富士山頂で観測したエアロゾル粒子の雲凝結核への成長	学生
13:51-14:00	休憩				
14:00-14:12	②大気	5	皆巳幸也(石川県立大学)	ちよつと上まで行きます～ドローンで見る太郎坊上空の大気～	一般
14:12-14:22	(富士山麓)	6	石川翔(早稲田大学)	富士山麓から放出される植物由来ガス観測をマルチコプターで初挑戦！：夏季に向けて冬季にチャレンジ	学生
14:22-14:34		7	和田龍一(帝京科学大学)	富士山中腹における窒素酸化物濃度	一般
14:34-14:44	座長：	8	矢田茂久(東京都立大学)	富士山麓太郎坊でのCO, O ₃ , SO ₂ の測定	学生
14:44-14:54	野村渉平	9	米戸鈴美香(早稲田大学)	富士山麓で夏季豪雨の実態解明にチャレンジ！：地球温暖化と大気汚染の相乗効果解明を目指して	学生
14:54-15:04		10	趙鶴立(早稲田大学)	富士山麓で冬季の大気中マイクロプラスチック観測に初挑戦！：新規サブミクロン赤外分光法(O-PTIR)の活用	学生
15:04-15:14		11	齋藤天真(東京理科大学)	東京神楽坂および富士山麓で測定した気柱全体のエアロゾルの光学特性・微物理特性	学生
15:14-15:25	休憩				
15:25-15:37	③雷・噴火など	12	鴨川仁(静岡県立大学)	雷雲の中に潜り込める世界最先端の雷研究の地、富士山	一般
15:37-15:49		13	鈴木智幸(静岡県立大学)	雷雲と宇宙の間で起こる放電発光、スプライト・エルブスらを絶景の富士山から観察する	一般
15:49-16:01	座長：	14	安本勝(富士山環境研究センター)	富士山観測によるリーダの進展モデル	一般
16:01-16:13	大河内博	15	長尾年恭(東海大学)	富士山の噴火予測観測をNPOLレベルを目指す～静岡県では初の全磁力観測	一般
16:13-16:25		16	加藤俊吾(東京都立大学)	富士山頂で火山ガス越冬モニタリング：富士山噴火に備える	一般
16:25-16:30	閉会挨拶：鴨川仁（副実行委員長）				